



2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2025年11月6日

上場会社名 日本ルツボ株式会社

上場取引所 東

コード番号 5355 URL <https://www.rutsubo.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西村 有司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長 (氏名) 岡本 聡

TEL 03-3443-5551

半期報告書提出予定日 2025年11月13日

配当支払開始予定日 未定

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2025年4月1日～2025年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	5,045	3.9	188	13.3	226	1.0	146	6.5
2025年3月期中間期	4,855	0.9	217	66.4	228	77.7	137	29.7

(注) 包括利益 2026年3月期中間期 460百万円 (236.3%) 2025年3月期中間期 137百万円 (19.6%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	22.07	—
2025年3月期中間期	20.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	11,432	5,940	52.0
2025年3月期	11,216	5,581	49.8

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 5,940百万円 2025年3月期 5,581百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	17.00	17.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,300	5.3	550	16.2	600	21.9	400	14.1	60.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 — 社（社名）、除外 — 社（社名）

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

以外の会計方針の変更：無

会計上の見積りの変更：無

修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期中間期	7,045,200 株	2025年3月期	7,045,000 株
2026年3月期中間期	399,855 株	2025年3月期	417,355 株
2026年3月期中間期	6,635,345 株	2025年3月期中間期	6,627,845 株

期末自己株式数

期中平均株式数（中間期）

第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間連結損益計算書に関する注記)	8
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気の緩やかな回復が継続しました。先行きについては、各種の政策効果もあって景気の緩やかな回復が継続していくことが期待されますが、内外の政治・経済の動向や人手不足・賃上げ、物価高の影響などを十分に注視する必要があります。

当社グループを取り巻く関連業界におきましては、主要取引先である自動車関連産業は、足元で販売・生産台数が前年比減少しており、米国の通商政策による輸出の落ち込みで収益改善に足踏みがみられるなど、先行き不透明な状況にあります。

鉄鋼産業は、建築・自動車向けを中心に需要が減少傾向にあり、また粗鋼生産量の減少傾向が継続するなど、予断を許さない状況にあります。

このような状況のなか、当社グループは営業と技術が一体となり、主力製品や新製品の拡販活動を積極的に推進いたしました結果、当中間連結会計期間の売上高は50億4千5百万円と前年同期比3.9%増加いたしました。利益面では、営業利益は1億8千8百万円（前年同期比13.3%減）、経常利益は2億2千6百万円（前年同期比1.0%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は1億4千6百万円（前年同期比6.5%増）となりました。

①事業の分野別業績

鋳造事業は、自動車関連産業の低操業の影響により、売上高21億2千4百万円（売上高比率42.1%）と前年同期比5.2%減少いたしました。

鉄鋼事業は、当社がメンテナンスを担当する高炉での受注減により、売上高4億6千8百万円（売上高比率9.3%）と前年同期比15.2%減少いたしました。

工業炉事業は、大型案件の進捗が寄与し、売上高7億6千4百万円（売上高比率15.2%）と前年同期比67.9%増加いたしました。

環境・工事業は、民間焼却設備を中心に受注が継続し、売上高12億3千4百万円（売上高比率24.5%）とほぼ前年同期並み（前年同期比0.9%減）となりました。

不動産事業は、売電収入増により、売上高1億9千8百万円（売上高比率3.9%）と前年同期比2.6%増加いたしました。

塗料循環装置事業は、設備の検収が安定的に継続し、売上高2億5千5百万円（売上高比率5.1%）と、前年同期比51.2%増加いたしました。

②セグメントの業績

耐火物事業の売上高は25億9千4百万円（売上高比率51.4%）と前年同期比6.6%減少し、営業利益は1億2千1百万円と前年同期比54.4%減少いたしました。エンジニアリング事業の売上高は19億9千7百万円（売上高比率39.6%）と前年同期比16.3%増加し、営業利益は3億2百万円と前年同期比22.5%増加いたしました。不動産事業の売上高は1億9千8百万円（売上高比率3.9%）と前年同期比2.6%増加しましたが、太陽光発電設備の償却費負担増等により営業利益は1億1千4百万円と前年同期比4.5%減少いたしました。その他事業の売上高は2億5千5百万円（売上高比率5.1%）と前年同期比51.2%増加し、営業利益は1千万円（前年同期は営業損失7千3百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末比1億2千9百万円（1.9%）減少し、65億2千7百万円となりました。

当中間連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末比3億4千5百万円（7.6%）増加し、49億5百万円となりました。主として、新規の製造設備を取得したことによるものです。

これにより、当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比2億1千6百万円（1.9%）増加し、114億3千2百万円となりました。

当中間連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末比2億2千9百万円（5.9%）減少し、36億5千万円となりました。主として、電子記録債務の減少によるものです。

当中間連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末比8千7百万円（5.0%）増加し、18億4千2百万円となりました。主として、長期借入れによるものです。

当中間連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末比3億5千8百万円（6.4%）増加し、59億4千万円となりました。

この結果、当中間連結会計期間末の自己資本比率は52.0%（前連結会計年度末は49.8%）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前中間連結会計期間末比9百万円増加し、18億1千6百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益2億2千6百万円、減価償却費1億7千2百万円などにより1億7千9百万円の収入となりました。(前年同期は5億7千6百万円の収入)

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得2億3千3百万円などにより2億1千3百万円の支出となりました。(前年同期は4億8千8百万円の支出)

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の増加3億5千万円などにより1億2千7百万円の収入となりました。(前年同期は1億6千1百万円の収入)

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の通期連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)につきましては、2025年5月8日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

なお、業績予想を見直す必要が生じた場合は、速やかに開示する予定です。

(注) 上記の業績予想につきましては、本資料発表現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。